

## ワークショップ「チーム支援会議体験編」

- 1 タイトル 「効果的なチーム支援を考えよう！」
- 2 目 標
  - ・情報をつなぎ、子どもの理解を深めることを体験する。
  - ・チームを組み、具体的にそれぞれの立場でできる支援を考える。
- 3 準備
  - ・ワークシート ・模造紙 ・付箋紙 ・マジック ・筆記用具
- 4 展開例 （4～5人グループ・約45分）

手 順	時	留 意 点（準備するもの）
1 事例についての情報からみんなで意見を出し合い、子どもの思いや状況を理解する。	15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、個人で事例の文や情報から、この事例の子の思いや状況を付箋紙に書き出す</li> <li>・模造紙にそれぞれが、自分で書いた付箋紙を模造紙の上に貼っていく。（ブレンストーミング）</li> <li>・共通するものごとにまとまりをつける。（KJ法）</li> </ul>
2 どんな人で支援チームを組んでいか話し合い、すぐ行う支援の共通目標を決める。	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな人でチームを組むか考え、グループでその役割になって、共通目標を決めていくように伝える。</li> <li>・普段の自分と違う立場になるといいことを伝える。</li> </ul>
3 それぞれの役割になって、具体的な支援を考え、話し合う。	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの結果、いつ、誰が、誰に行う支援かを具体的にワークシートにまとめる。</li> <li>・話し合う中で、互いの支援についての要望やアドバイスなどを行うとよいことを伝える。</li> </ul>
4 各グループに具体的な支援案を発表してもらおう。	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの立場で具体的に支援を考えることが大切であることをまとめる。</li> <li>・普段と違う立場で支援を考えることによって支援の幅が広がることを感じてもらう。</li> </ul>

ワークショップ 「チーム支援会議体験編」



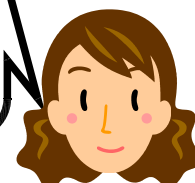
下のような生徒への支援を  
チームを組んで考えましょう。

私のクラスのB子は、1年の2学期から登校しづりが始まり、理由を聞くと「部活がいやだ」「勉強がいやだ」と言っていた。3学期には欠席が続くようになりました。家庭訪問し、保護者とB子への支援を話し合いました。その結果、保護者が、学校へ送迎し、担任と養護教諭が保健室で対応しました。保健室では、勉強をしたり、好きな絵を描いたりしていました。

2年生になるとB子は、担任と1学期の目標を話し合い「遅刻しないで登校する。」と約束し、自分で相談室登校をするようになりました。

今後B子や保護者へどのように支援をしていったらよいのでしょうか？

(担任より)




〔B子に関する情報〕

- ・美術や家庭科が好きである。
- ・相談室では、いつも勉強道具を出している。
- ・学力は、高くない。
- ・どの教師や友達ともかかわれる。
- ・SCや相談員とよく話をする。
- ・相談室の鍵を取りに職員室に自分で来る。
- ・部活動の卓球には行きたがらない。



B子は、今どんな思いを持っているでしょうか？  
みんなで話し合ってみましょう。

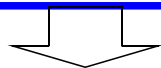
(ブレインストーミングやKJ法などで)



どんな人たちでチームを組んでB子や保護者への支援を考えていくといいですか？



B子や保護者へ1学期の支援の共通目標を決めましょう。



それぞれがチームの構成メンバーになって、1学期の支援について考えましょう。具体的にそれぞれが「いつ・誰に・どんな支援ができるか」考えましょう。

誰が・いつ・誰に	どんな支援ができるか

(資料 4)

【 第 ( ) 回の支援の共通目標 広げよう！支援の輪 年 月 日 】

【 具体的支援と子どもの様子 】

いつ	支援内容	子どものその時の様子やその他の変容

子どもの課題

教師の課題



子どもにかかわれる人でチームを組んで  
支援してみませんか？

みんなでいつでもどこでも情報交換をしてかかわりを考えよう！

#### チーム支援のポイント！

それぞれの立場で

どんな支援ができるか考え、かかわる

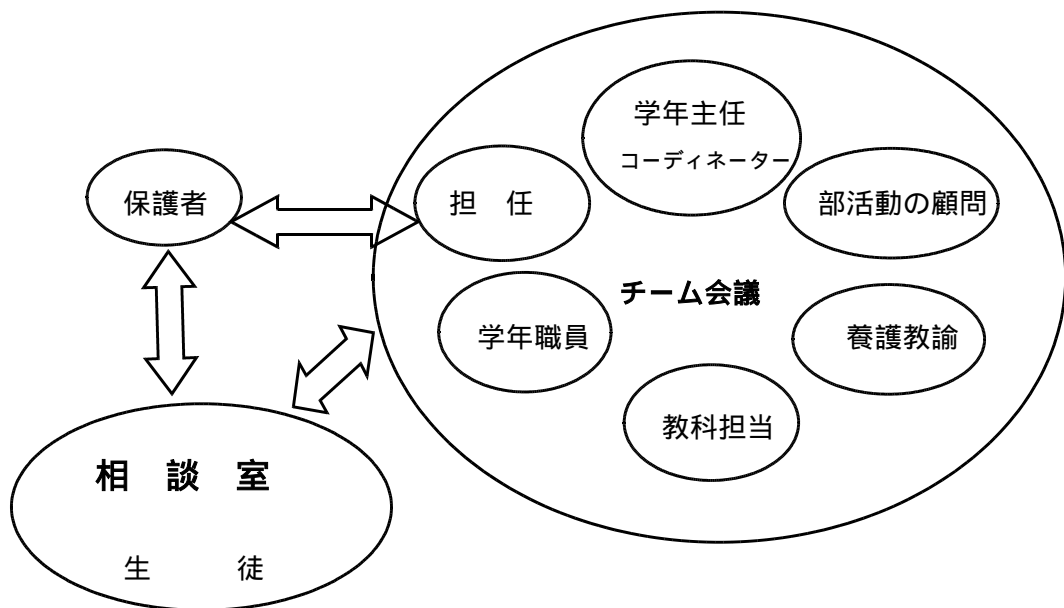
- 1 子どもにかかわれる人3～4人で  
チームを組む。
- 2 養護教諭やSC・相談員に入って  
もらう。
- 3 コーディネーターを決める。

#### コーディネーターの役割は？

問題解決の協働意識を  
高める役割

- ・子どもの情報収集・伝達役
- ・校内への情報発信
- ・外部機関との連絡・調整役
- ・チーム支援会議の運営役

(1) 相談室登校をしている子へ支援を行う学年職員を中心としたチーム例

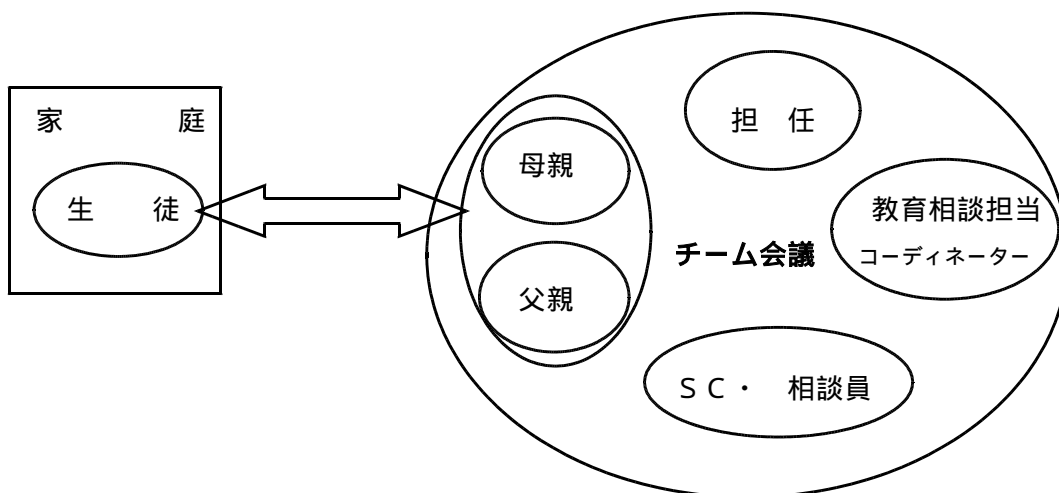


学年主任が、チームのメンバーそれぞれが行う支援やその時の子どもの反応についての情報を持ち、つなぐ「コーディネーター」の役割を果たす。

学校全体の教職員に共通理解してほしいことや協働してほしいことなどについて、学年主任が打ち合わせなどで話す。

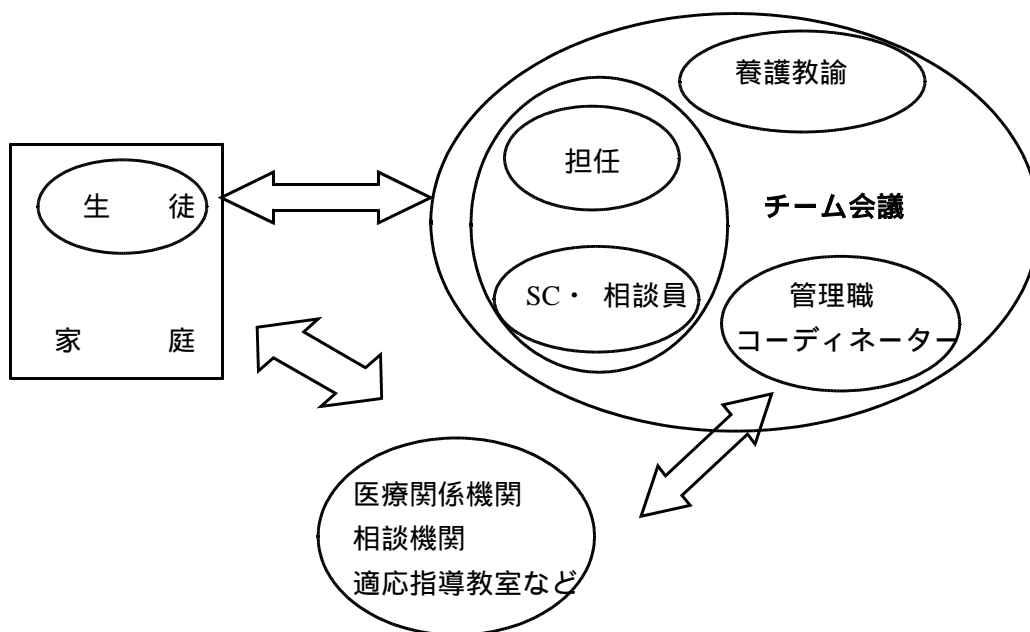
保護者への対応は、主に担任だが、内容によって学年主任や管理職と一緒に教育相談を行ってもらうことも必要です。

(2) 学校の教職員と会えない子どもへ支援を行う保護者とのチーム例



保護者と一緒にチームを組んで話し合う場合の注意点としては、学校の関係者はなるべく保護者との信頼関係が強い人にする。そして、少ない人数にする。また、SCや相談員などは、保護者の立場にたって話し合いに参加する。

(3) 外部関係機関と連携を必要とする子どもへの支援を行うチーム例



管理職は、外部関係機関との連絡・調整を行う。そして、外部関係機関での支援や子どもの様子を情報として得た上で、「学校でどんな支援を行うか」チームで考える。また、外部関係機関と連携を行う際は、保護者に了解をとっておくことが大切です。

## チーム支援会議のポイント

支援の振り返りをする。 子どもの理解を深める。

「効果的だった支援は何か？」

「子どもの反応がよくなかったのはなぜか？」

支援の課題について検討する。

次の共通支援目標を決める。

- ・子どもや保護者の立場に立った支援目標を立てる。

チームのメンバーの検討をする。

- ・新たに協力をお願いするメンバーが必要かどうか。

自分に何ができるか具体的な支援について考える。

- ・「いつ」「誰が」「どんなことをするか」

できるだけ具体的にする。

意図（支援の目標）を持って、かかわろう！

そして、かかわりを振り返ることが大切です！

